

連合同窓会加入式～第1回卒業生も集う！～

第73回の連合同窓会加入式は、大変盛大に挙行されました。というのも、**第1回卒業生**の舟橋様、青山様、飯岡様、矢口様、村山様の5名が母校であるこの四中に集ってくださったのです。第1回卒業生は、御年88歳になられます。代表して元テレビ朝日アナウンサー（プロレスの中継やアントニオ猪木さんの名言を生み出した方です）の舟橋慶一様がお話をしてくださいました。卒業生へのはなむけの言葉として「**みなさんは可能性の塊です！可能性を秘めた未来を自分で切り拓いていってほしい！**」と、ご自身がアナウンサーになるまでの決意や努力とともにお話してくださいました。そして、アントニオ猪木さんの「1・2・3・ダー！！」を四中バージョンで「**1・2・3・四中・ダー！**」にして、**卒業生全員と一緒に力強い拳を振り上げ、未来に一步踏み出すきっかけをくださいました。**

また、連合同窓会加入式の最初に校歌を歌ったのですが、連合同窓会役員の皆様も、第1回卒業生の皆様も魂を込めた力強い歌声と一緒に歌ってくださいました。ここに**大きな母校愛**を感じました！

連合同窓会会長の須田様からは、「日々を大切にしてほしい。そして母国語を大切にしてほしい。」
「ドイツのエリカ・ケートさんは言語の響きに敏感で色々な国の言葉を次のように表現しました。イタリア語は歌を歌うための言葉、フランス語は愛を語るための言葉、ドイツ語は詩を詠むための言葉、そして**日本語は人を敬う言葉**だと。」「母国語を大切にできない人が、なぜ相手の国や相手の人を理解できるでしょうか。自分や自分のまわりのものを大事にしてこそ、相手の立場や国、文化を大切に思う心に繋がるんです。そして、四中への母校愛も大切に。歴史と伝統ある連合同窓会にご加入おめでとう！」これからの正解のない社会に向かっていく15歳にとって、とても重みのあるメッセージをいただきました。



芸術鑑賞会～ジャズの世界へ♪～

今年度の芸術鑑賞会では、ジャズバンドをお招きし、ピアノ・チェロ・サックス・ドラムの4つの楽器による本格的なジャズ演奏を披露していただきました。力強くも繊細な音色が響き渡り、体育館はまるでおしゃれなバーのような雰囲気になりました。

また、吹奏楽部の生徒たちは、ジャズの基本となる音の出し方やリズムを直接指導していただき、プロのミュージシャンとセッションを体験しました。普段の演奏とは違うリズムの取り方やアドリブの魅力に触れ、貴重な学びの時間となりました。さらに、本校の校歌をジャズアレンジで演奏していただき、いつもとは違った雰囲気の校歌に驚きと感動の声が上がりました。プロの生演奏に触れ、音楽の楽しさや奥深さを感じることができた素晴らしい鑑賞会となりました。

